

中村メイコさんと富岡

新城支部 安形 茂樹

昨年(2019年)の十二月三十一日、中村メイコさんが享年八十九歳で逝去された。女優であり歌手であり、声優、司会、エッセイストでもあるマルチ才能の巨星である。何より、富岡を『ホントのふるさと』とされ、洞雲寺にご両親の墓を建立され、自分もそこに眠ることになっていると公言されていた。それほどメイコさんにとって富岡は思い入れの深い土地である。

メイコさんを語る会

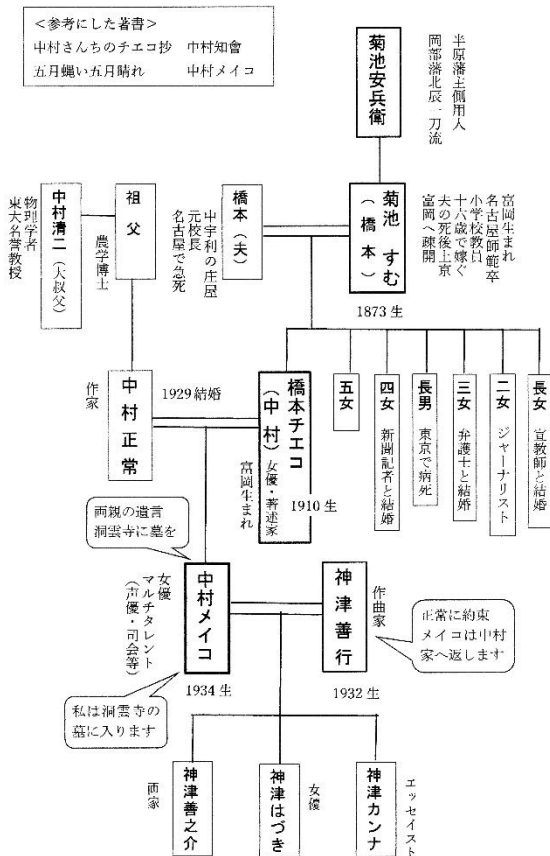
一月七日の報道発表を受け、予定していた十日の「昔を語る会」を急遽「メイコさんを語る会」に変更した。メイコさんだけでなく母親のチエコさんと関係のあった方々に連絡をし、当日は三十名ほどの方が集まり、メイコさんとの関わりや思い出を語ってもらったことにした。メイコさんが富岡の人々に慕われ、ご冥福をお祈りしたいとの思いがあふれた会となった。

富岡との縁

メイコさんと富岡との縁は幕末にさかのぼる。一万円の新札となった渋沢栄一氏の出身は埼玉県深谷市で当時は岡部藩だった。岡部藩は慶応四年(一八六八年)四月、藩を富岡に移し半原藩となる。その半原藩主の側用人として仕えたのがメイコさんの曾祖父にあたる菊池安兵衛である。北辰一刀流の使い手で有能な方で、当時の藩主が安部家に過ぎたるものもの一つとして菊池安兵衛の名を挙げたとされている。

安兵衛の娘のすむさんは、博学勤勉で教職に就き、隣村の中宇利の庄屋

中村メイコさんのご家系



橋本家に嫁ぐ。夫に苦勞させられるが、先立たれた後に東京へ出て子どもたちを立派に育て上げている。メイコさんの母親となる末娘のチエコさんは女優、著述家として才能を発揮された方で、その多忙さ故にメイコさんはすむさんの世話になり、おばあちゃん子になったそうである。

戦時中、中村家は奈良に疎開することになったが、すむさんは生まれ故郷の富岡に疎開された。メイコさんは既にスターになっていたが、忙しさの合間を縫って、チエコさんと共に何度もおばあちゃんを訪ねた。疎開先は下宇利の浅見家で、すむさんは昭和二十五年まで七年あまり富岡で過ごした。昭和三十年に大ヒットした「田舎のバス」は、メイコさんが大好きなおばあちゃんに会いに新城駅から富岡に来る時の体験が基になっている。「♪田舎のバスはおんぼろ車。タイヤはつぎだらけ、窓は閉まらない。それでもお客さん、我慢してるよ。それは私が美人だから。田舎のバスは

おんぼろ車。デコボコ道をガタゴト走る♪」

若い女性の車掌が乗ったボンネットバスが走る情景が浮かんでくる。

洞雲寺へ納骨

メイコさんが両親の墓を洞雲寺に建てたのは、平成七年五月のことだが、その時にはすでに墓碑銘に父正常と母ちる子(本名)の横に中村メイコと赤い色彩で刻まれている。

五月九日の昼頃、黒のワゴン車で神津善行さん、カンナさん、はづきさんが納骨におみえになった。いつもお忍びでみえるとのことでお寺の意向も伺い、ごく近い関係のあった六名のみで迎えさせていただいた。

本堂であいさつした後、それぞれにメイコさんとの思い出やお世話になったことを伝えた。私の場合は、平成二十二年に「富岡での思い出」を書いてほしいと原稿依頼して以来、講演やホームページ掲載の依頼等で何かと無理を申し上げたが、いつも心よく迅速に対応していただいた。電話でも優しい気遣いをされ恐縮したことを話した。位牌堂で、住職が都合で来られなかったためお庫裡さんによる般若心経とご詠歌が捧げられた。そこで、夫の善行さんは私たちにこうあいさつをされた。

「結婚する時、お父さんの正常さんは、『メイコは一人っ子だから神津家へはやれない。』と言われました。それで、お父さんに『メイコは必ず中村家へお返しします。』と約束して結婚した経緯があります。今日は、やっと約束を果たすことができました。お父さんお母さんも喜んでくれると思います。今後はみなさま方にもお世話になると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。」

テレビで拝見するような穏やかな優しい口調で、心から安堵された表情だった。メイコさんの著書「人生の終いじたく」にも書かれていた通りだった。墓地に向かう時、私は気になっていたことをはづきさんに尋ねた。

「メイコさんの遺骨は神津家へは分骨されないのですか?」

「母の遺言は全骨洞雲寺へ、でしたが、父と家族で相談して神津家へも分骨させていただきました。

ただ、母は口やかましいというところで、口元あたりの遺骨は洞雲寺に納めさせていただきます。」

と答えられました。思わず笑ってしまったと思いますが、「それが一番よかったですと思いますよ。」と返し、私も安堵しました。

八名小縦割り班遠足

昨年の十一月二十九日、八名小学校全校縦割り班遠足が行われた。その実施計画と運営を八名郷土史会が担った。学校行事を任せられるとは前代未聞のことだが、富岡地区には見どころが多い。会員がそれぞれのチェックポイントでクイズと説明をしたところ、子どもたちにも会員にも好評の行事となった。半原藩邸跡や洞雲寺、車神社など十カ所のポイントを設けたが、そのうち二カ所はメイコさん関係だった。一カ所はメイコさん建立の洞雲寺の墓、もう一カ所は富岡ふるさと会館にある田舎のバスの看板前だった。ここでは田舎のバスの歌を聞いて分かるクイズだった。

神津家のみなさんに、「最近の若い人には中村メイコさんと言ってもピンとこない人がいるけど、八名小学校の全校児童二百人は、全員メイコさんのことを知っていますよ。」と話すと、みなさんの顔がほころんだ。

(新城支部の活動報告を兼ねて紹介させていただきました)



墓前にて はづきさん、善行さん、カンナさん